

RS ウイルスワクチン（アブリスボ®筋注用）接種開始のお知らせ

2024年5月31日から日本全国でRSウイルスに対する母子免疫ワクチン「アブリスボ®筋注用」が発売となりました。寺内医院でも接種開始いたします。

分娩施設へ転院後の患者様、他院で妊婦健診を受けている方も当院で接種可能です。

RS ウイルスとは

RSウイルス（Respiratory Syncytial Virus）は、乳幼児の呼吸器感染症の主要な原因であるウイルスです。感染すると、以下のような症状が見られます。

※ 発熱、咳、鼻水

特に生後6カ月未満の乳児では重症化しやすく、基礎疾患の有無にかかわらず注意が必要です。重症化した場合、以下のような合併症を引き起こす可能性があります。

※ 細気管支炎、肺炎、低酸素症、無呼吸、急性脳症



RS ウイルスの感染率と予防の必要性

RSウイルスは非常にありふれたウイルスであり、多くの乳幼児が2歳までに感染します。生後1~2カ月の時点での入院発生率がピークとなるため、生後早期からの予防策が重要です。

※ 生後1歳までに50%以上

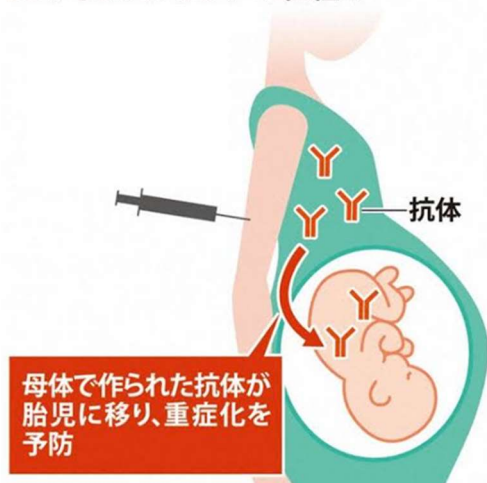
※ 2歳までにほぼ100%が初感染

症状は感冒症状から、上気道症状（鼻閉、鼻水、くしゃみ）、下気道症状（咳、呼吸困難、喘鳴）まで様々です。成人にとっては風邪程度で済むことが多いのですが、特に6カ月未満の乳児では重症化しやすく、肺炎や無呼吸、急性脳症などを引き起こします。年間12-14万人の2歳未満の乳幼児がRSウイルス感染症と診断され、そのうち3万人が入院を要しています。

アブリスボ®とは

アブリスボ®は、妊婦さんに接種することにより、母体のRSウイルスに対する中和抗体価を高め、その抗体が胎盤を通して胎児に移行します。赤ちゃんは生後数か月の間、免疫が十分ではありませんが、その期間も含めてRSウイルスを原因とする下気道疾患（気管支炎や肺炎）から赤ちゃんを守る効果が期待されます。

母子免疫を利用したRSウイルスワクチンの仕組み



対象

※ 妊娠24~36週の妊婦

※ 望ましい接種週数：28~36週

* 接種後14日以内に産出した場合、移行抗体が十分でない可能性があり、有効性は確立していません。

接種回数 1回

効果

※ 発症予防効果：約50%

※ 重症化予防効果：約80%

※ 効果持続期間：生後6カ月まで

価格 33,000円（税込）

当院で「アブリスボ®筋注用」の接種を希望される方は、受付またはお電話 03-3386-2267 にてご予約ください。